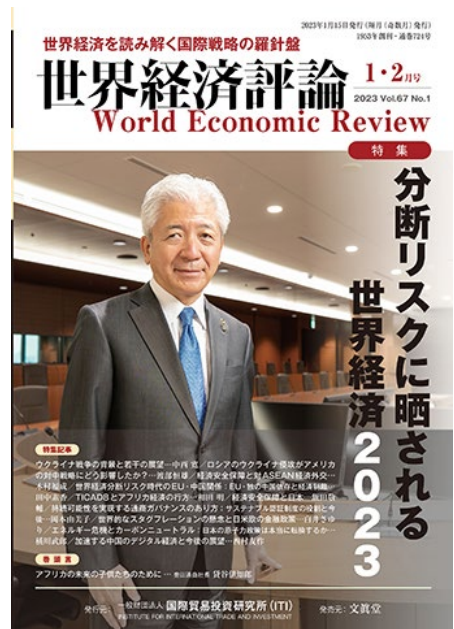


本論文は

世界経済評論 2023 年 1/2 月号

(2023 年 1 月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料
OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

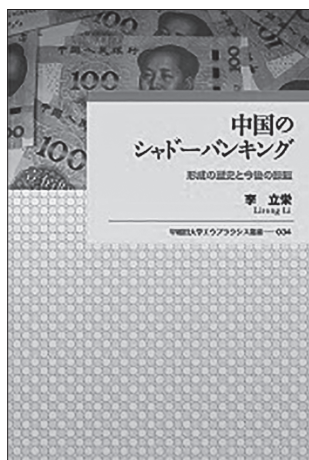
Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp

雑誌のオンライン書店

中国のシャドーバンキング ：形成の歴史と今後の課題

関西大学総合情報学部教授 **地主 敏樹**



[著者] 李 立栄 (り りつえい)
 亜細亜大学都市創造学部准教授
 [発行] 早稲田大学出版部, 2022年7月
 [判型] A5判, 328ページ
 [定価] 本体4,000円+税

日本金融学会における李立栄氏の報告会場はいつも盛況である。中国の金融システムが日本とは顕著に異質である上に、経済発展に伴って急速に変化してきており、中国政府の政策もかなり劇的に変化する。さらに、中国語という言葉障壁も存在しているので、その現状を把握することはなかなか難しい。深い知見が豊富な現地調査とデータに裏打ちされている、李氏の研究報告を聞く機会は貴重なのである。

本書は、中国金融システムの中でも変化の激しい業態を取扱い、李氏の長年の研究の成果を包括的にまとめた内容である。多くの図表や文献リストも含む3百余頁に及ぶ労作であり、比較すべき類書が存在していない唯一無二の書と言えよう。日本語で本書が書かれたことは、日

本の金融関係者にとって幸運である。

米国のシャドーバンキングが世界金融危機の震源となったことから、中国のシャドーバンキングの不安定性も注目され易いが、李氏はそうした見方に与さない。様々に定義されてきた中国のシャドーバンクに対して、銀行との関係が深い①型と、伝統的なインフォーマル金融をベースとする②型、そしてフィンテック分野の③型という3類型に明快に分類して、規模を算出してみせる。

関心のある読者なら、3類型の主要プレイヤーとビジネスモデルを概観する第1章を読んだだけでも、それまでの疑問点がいくつも解明されるだろう。中国の金融引締め手段が突然の新規貸出停止であったことには評者も驚いたものだったが、それがシャドーバンキングの発達を招いていたことを読むと頷かされた。

第2章と第4章では、3類型の詳細な業務内容が説明されている。丹念に図解が提供されているので分かり易い。第3章は、規模が最大の①型を中心に米国と比較して、中国の不安定性が相対的に低いと論じている。規制回避目的で信用取引のチェーンが長くなり銀行も深く関係していることなど類似点も多いが、中国の場合は複雑な仕組債はほとんど使われていないシンプルな構造であり、規模も相対的に小さいというのである。続く第5章を3類型のリスク評価に充てて、詳しく検討している。

第6章において金融規制を検討した後、李氏は「中国のシャドーバンキングについて、欧米での規制強化論の下のネガティブな視点から評価すべきでない。むしろ、中国の金融システム改革は新しい局面に入ったと捉えるべきである」と結んでいる。この点では見方が分かれるかもしれない。中国政府はP2Pレンディング市場を全面閉鎖してしまった。詐欺的なプラットフォームへの対策はうまく進んでいたのに、動機は何だったのだろうか？

(ぢぬし としき)